

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

後援会からのメッセージ

2023年を迎えるに当たって



後援会会長
鯨岡 光男 (祐介/社会学部)



日頃から、後援会活動へのご理解ならびにご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ここ数年、世界中で猛威を振ってきた新型コロナウイルスが、大学生活を送る学生たちに多大な影響を与えたことは、言うまでもありません。そして後援会活動自体もその影響を大きく受け、自粛や制限をせざるを得ない状況となりました。この間は、困窮するご家庭や学生への経済的支援、大学による新型コロナウイルススワクチン接種への補助などを実施しました。一方で、全国の会員相互の親睦を図る「新人生父母の集い」や「父母懇談会」、そして「支部長会議」などは、中止またはオンラインでの開催や出席者人数の制限など、厳しい制約・条件下での実施を余儀なくされる状況が続いておりました。

2022年度の後援会活動は、こうした状況の中でスタートしました。コロナ禍の環境に改善の光が見

え始めていたことから、ウイズコロナ下で学びを継続している学生のために、そして全国の会員間の交流を継続・発展させていくためにも、従来の活動を少しずつ再開させていくことを決定しました。

全国35の支部で行われる支部総会ならびに父母懇談会では、原則対面式での開催をお願いしました。また、それらの会合に実に3年ぶりに後援会首都圏役員も参加させていただき、支部の皆さまと直接お会いすることのできる喜びを改めて実感しました。

さらに、市ヶ谷・多摩・小金井の3キャンパスでは、一定の条件下ではありましたが、キャンパス見学ツアーを実施しました。東京六大学野球では、秋季リーグ戦から応援活動を再開させることができました。全国の会員の方々が一堂に会して、「我が母校」法政大学の野球部の応援を実施できたのも、本当にうれしい限りでした。



後援会活動をコロナ禍以前のよう
に制限なく行えるようになるかどう
かは、まだまだ予断を許さない状況
です。しかしながら、諸先輩方がこ
れまで守り続けてきた76年の伝統を
受け継ぐとともに、コロナ禍で体験
した厳しい危機経験を今後にかし
ていくことで、2023年以降も全
国の会員の皆さまと一緒に良い
後援会活動を実現していきたいと思
います。

一日も早く安心して暮らせる日常
が戻るよう、また会員の皆さまに
とって2023年が幸多き年となり
ますよう祈念申し上げます。

後援会からのレポート

支部長会議報告



後援会総務
小出 由起子 (健文/理工学部)



2022年度の支部長会議を11月12日(土)に市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワー26階「スカイホール」にて開催しました。今回は来場(57人)とオンライン参加(19人)のハイブリッド形式で開催し、新たに会計に関する個別相談も実施しました。

廣瀬克哉総長に大学の近況についてお話しいただいた後、後援会連携室の「これからの法政大学後援会支部について」と題する講演で、後援会の生い立ちや支部発足の流れ、コロナ禍の影響、現在の支部の状況や課題などをお話しいただきました。

その内容を踏まえて参加者が7グループに分かれ、①今年度の父母懇談会、②支部独自の活動、③支部運営で困っている点や他支部に聞いてみたいことの3テーマでグループディスカッションを行いました。

テーマ①では、対面やオンライン併用、そして新たなブロック開催により、3年ぶりに大学の理事や学部

長、キャリアセンター職員、そして後援会本部役員の来場がかない、懇談が行えてとても良かったという意見が多数ありました。また、単独開催の難しい支部からは、ブロック開催で負担が軽減されたという声が聞かれました。

テーマ②では、スポーツ応援や、地域イベントに参加する学生団体の応援を行っている支部の報告がありました。また、東京六大学野球応援やキャンパスツアーを再開した支部が多く、参加者に大変好評とのことでした。

テーマ③では、「コロナ禍で支部活動がストップしていたため、活動経験のない前年度役員から書面だけの引き継ぎとなり、今年度の活動では苦勞した」「支部長や会計の負担が大きい」「新役員の選出がと

ても大変」などが挙げられました。役員選出の対策として、支部の



冒頭の廣瀬総長からのお話



グループディスカッションの様子

案内状に役員のコメンツを掲載してアピールしているという報告もありました。支部によって会員数や課題は異なりますが、さまざまな意見を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。

本部からの統括にもあったとおり、今後も皆さまのご協力の下、本部・支部が協力し合い、後援会の合言葉「子どもの母校は我が母校」の精神で活動に取り組んでいきたいと思いをします。

最後になりましたが、支部長会議開催に当たり、廣瀬総長をはじめ多くの大学関係者の皆さまにご協力いただきましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

2022年 写真で振り返る後援会



4月3日
入学式

4月16日
東京六大学野球応援(対立教大学戦)

5月21日
新幹事予定者説明会

6月11日
第1回常任幹事会

6月12日
新入生父母の集い(静岡支部)

6月25日
役員研修会

7月24日
支部総会・父母懇談会(長野県支部)

10月2日
首都圏父母懇談会(市ヶ谷キャンパス)

11月12日
支部長会議

総長・学内理事と後援会との懇談会

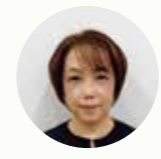
2022年11月24日(木)、市ヶ谷キャンパス九段校舎において、総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会が行われました。後援会ウェブサイトにも懇談会の報告記事を掲載しておりますので、ご覧ください。

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



関西支部からのレポート

キャンパスツアー&スポーツ応援



関西支部支部長
灰田 カンナ (小梅/スポーツ健康学部)



2022年10月8日(土)、私たちにとって初めてのキャンパスツアー&東京六大学野球応援とあって、緊張とうれしさで予定時間より早く神宮球場に集合。本部役員の方から、応援スタイルなどをご指導いただき、三塁側内野席で試合を応援しました。

野球部員の健闘ももちろんですが、応援団のリーダー部、チアリーダー部、吹奏楽部の皆さんも素晴らしい、振りや手拍子などの一つ一つ、音の一つ一つ、体全体に力と魂を込めて、本当に頑張っている姿に感激。対戦相手の慶應義塾大学とのエール交換では、慶應からの心の込められたエールに目頭と胸が熱くなりました。試合結果は残念でしたが、たくさんの方から、感動をもらえました。

野球応援後は市ヶ谷キャンパスへ。株式会社エイチ・ユーの方のご案内で、外濠・富士見坂・富士見ゲート・大内山の各校舎、図書館、ボアonnード・タワーなどを見学。各校舎や構内にわが子の姿を重ねて、こころでも感無量。見学中、皆さんのスマー

トフォンのシャッター音がやむことはありませんでした。ツアー後は、一口坂校舎の販売コーナーで、それぞれ法政グッズを購入しました。

宿泊した参加者は、翌日、多摩キャンパスで開催された男子ラクロス関東東学生リーグの1部・2部入れ替え戦の応援に。

試合は、第1クォーターに先制した青山学院大学の優勢で進行。追いつけそうで追いつけないもどかしい展開。最終第4クォーター開始時のスコアは4対5、法政側は攻め込まれ続け、私たちは諦め……。でも選手たちは不撓不屈！ デイフェンス陣からキャプテンにボールが渡り、キャプテンがチームメイトを見据えて「行くぞ」と気概を送った(ように見えた)そこから！ 仲間の力を信じ、残り時間わずか反撃開始！

1点また1点。必死で声援をこらえていた私たちは、跳び上がりつ放し。終わってみれば9対5の逆転勝利で、前日に続き、チームプレイの素晴らしさに感動した一日でした。



逆転勝利をつかんだ男子ラクロス部



東京六大学野球を応援した神宮球場前で

※男子ラクロス部はその後勝ち続け、11月5日(土)の入れ替え戦に勝利して、3年ぶりの1部リーグ復帰を遂げています。